

宇部・山陽小野田防災協会

防災だより

《第22号 令和5年1月発行》

■編集・発行：宇部・山陽小野田防災協会

■監修：宇部・山陽小野田消防局

宇部・山陽小野田防災協会 設立10周年記念式典



令和4年10月28日 宇部市文化会館にて 会長式辞

▶2022年度 全国統一防火標語

(春の火災予防運動実施期間 令和5年3月1日～3月7日)

お出かけは マスク戸締り 火の用心

▶令和4年度 危険物安全週間推進標語

一連の確かな所作で無災害

消防局からのお知らせ

住宅用火災警報器は、全世帯に設置が義務付けられています！

就寝中の火災による逃げ遅れを防ぐため、特に高齢者世帯への設置を急いでいます!!



(つづきは、「とりカエル通信」を検索してみてください！)

今回は、年頭挨拶に替えて、宇部・山陽小野田防災協会設立十周年記念式典の会長式辞を御紹介させていただきます。

会長式辞

UBE株式会社
宇部ケミカル工場

執行役員 高瀬 太
工場長



本日は、宇部・山陽小野田消防組合管理者であります宇部市長をはじめ、副管理者の山陽小野田市市長並びに消防組合議会議長のほか多数の御来賓の御臨席を賜り、当協会の設立十周年記念式典をこのように盛大に挙行できますこと、誠に感謝の念に堪えません。皆様方には協会を代表いたしましたして厚く御礼申し上げます。

当協会は地域の防火、防災の啓発を推進するという目的を等しくした宇部市防災協会と山陽小野田市危険物安全協会の二つの協会が平成二十四年に合併し、設立されたもので、当初は、六百四十一会員事業所でスタートいたしました。危険物

事業所の減少や景気の低迷等が続く中、年々会員数が減少し、令和四年四月現在で五百二十七事業所となっております。

更に、ここ数年はコロナ禍の影響により、協会事業も一部縮小を余儀なくされるなど厳しい状況が続いているところですが、この十年間、協会事業を通じて防火、防災の啓発活動を継続してまいりましたことは、地域の火災や危険物事故等の予防に少なからず寄与できたのではないかと自負しております。

このように当協会が地域貢献に活動できますのは、役員の皆様方を始め、会員事業所及び事務局の皆様方の御理解、御尽力の賜物であり、加えて宇部市、山陽小野田市を始め、地元関係機関の御支援のおかげでございます。この場をお借りして改めて皆様に感謝申し上げます。

さて、当協会設立一年前の平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災は、未だ記憶に新しいことと思えます。最大震度7の地震の後、大津波が東日本の太平洋側を中心に襲い、死者、行方不明者が二万人を超え、更に津波による原子力発電所の被災に伴い、放射能災害も発生するという未曾有の災害でした。国内で様々な災害対応、復旧対策がなされましたが、被害規模が大きく、十一年以上経過した今も復興事業が

続いており、日本の災害対策の転機とされる災害でした。

平成二十四年の協会設立後においても、熊本地震や北海道胆振東部地震など全国各地で大きな地震が発生しているほか、毎年のように発生する豪雨、台風による災害や夏の猛暑、冬の豪雪等の気象災害ともいえる事象が頻発しており、これら自然災害の予防対策、防災、減災対策の強化の必要性が年々増している状況です。

また、全国の火災件数は十年前の平成二十四年は四万四千件余りだったものが、令和三年では約三万五千件と一万件近く減少している一方で、危険物事故の件数は平成二十四年の五百七十三件に対して、令和三年は六百四十六件と増加しており、危険物施設が年々減少している中で事故件数は増加しております。

宇部・山陽小野田地区でも例外ではなく、火災は平成二十四年に八十一件が、令和三年に五十九件、危険物事故は平成二十四年に一件だったものが、令和三年には十六件となっており、火災は減少しているものの、危険物事故は増加しており憂慮すべき状況です。

幸い、近年は、宇部市、山陽小野田市において大災害と言われるものは発生していませんが、頻発する自然災害はいつ、どこで発生してもおかしなく、火災や危険物事故も影

響範囲が拡大し、大きな事故につながるリスクは常にあるものと認識しています。

このような複雑、多様化、大規模化する災害や事故に対して、地域の保安防災の推進を目的とする当協会としては、防火防災に関する啓発、災害に対する正しい知識や情報の共有等、様々な事業を通じて、より地域に密着し、防火、防災の普及啓発と関係機関との連携の強化を図り、これら事業に積極的に取り組むとともに、会員相互の協力のもと総合的な地域や事業所内での防災力の向上を進めていくなから、これらの災害や事故を防止し、万が一の際には、被害を最小限で抑えられるような事業所や人材を育成、発展させることによつて、安心、安全な地域を創造することを目指してまいります。

終わりにこの先十年、二十年と当協会の事業が、より発展し、益々充実したものとなるよう、協会役員及び会員事業所一同結束を固め、これまで以上に防火・防災に尽力し、地域に貢献していく所存ですので、本日御列席の御来賓の方々をはじめ、関係各機関の皆様方の引き続きの御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、御参会の皆様方の御健勝、御多幸を祈念し、私の式辞といたします。

(令和四年十月二十八日)

第1部 式典



御来賓の皆様



御来賓消防組合管理者(宇部市長)様より祝辞

令和四年十月二十八日、宇部市文化会館にて、宇部・山陽小野田防災協会が設立十周年の節目を迎えて改めて、危険物の事故防止、火災予防の徹底及び防火意識の高揚を図り、安心・安全な地域づくりに寄与するため、宇部・山陽小野田防災協会設立十周年記念式典を開催しました。
(※記念式典については、ホームページ公開中)

宇部・山陽小野田防災協会
設立十周年記念式典

第2部 記念講演



三浦様の御紹介



三浦様の熱意あふれる御講演

記念講演では、山口大学 名誉教授・工学博士 三浦房紀様に、「災害多発時代に備える」を演題に御講演いただきました。

記念表彰受賞者
(敬称略 順不同)

1 事業所表彰 (6事業所)

- ・宇部火薬株式会社
- ・有限会社木村商店
- ・医療法人 信和会 高嶺病院
- ・ジャパンファイナンスチール株式会社
- ・医療法人社団 信愛会
- ・瀬戸整形外科クリニック
- ・NJコンポネント株式会社
- ・山陽事業所

2 個人表彰 (9名)

- ・UBE株式会社 宇部ケミカル工場 松永 祐一
- ・株式会社宇部スチール 野口 浩
- ・西部石油株式会社 山口製油所 宮崎 光巨
- ・エネクスフリート株式会社 上寫 和也
- ・株式会社常盤商会 中尾 剛志
- ・株式会社ジュンテンドー 黒田 暁人
- ・三共運輸株式会社 秋山 勝吉
- ・山田石油サービス株式会社 平尾 保弘
- ・日本化薬株式会社 厚狭工場 小早川 和宏



個人表彰受賞の様子



事業所表彰受賞の様子

2 出火原因 (件数)

種別	令和4年	令和3年	比較
たばこ	4	7	- 3
こんろ	2	2	± 0
ストーブ	1	0	+ 1
火遊び	0	2	- 2
たき火	26	16	+ 10
放火等	3	4	- 1
※その他	44	28	+ 16
計	80	59	+ 21

※「その他」には、調査中を含みます。(令和5年1月4日現在)

1 火災発生状況 (件数)

種別	令和4年	令和3年	比較
建物	38	31	+ 7
林野	6	2	+ 4
車両	7	3	+ 4
船舶	1	0	+ 1
その他	28	23	+ 5
計	80	59	+ 21

令和四年 火災発生状況
宇部・山陽小野田消防局管内では、令和四年一月から十二月までの一年間に八十件の火災が発生し、一人の尊い命が失われ、十一人の負傷者が発生しました。火の元には気をつけましょう。

令和四年 火災発生状況

令和四年度 中学校防火・防災作文

防火・防災意識の向上として、今年度も次代を担う中学生から防火・防災に関する作文の募集を行いました。応募作品は十二校から五百七十二作品あり、一次審査及び二次審査を経て四作品が入賞し、各中学校で伝達されました。

(※作品については、ホームページ公開中)

宇部市教育委員会教育長賞

「前を向いていくために」

宇部市立常盤中学校

一年 森 珠紀 さん

「〇〇川が氾濫しました。」

この言葉を最近多く耳にするようになっていきました。そして、一面茶色の水に覆われている映像が流れてきます。私は、このニュースを見ると、昔のことを思い出します。

私が幼稚園生だったとき、近くの川の堤防が決壊し大規模な洪水が起きました。幸い私の家は被災せず済みました。しかし、いつも通っていた橋や道、家が水に沈んでいる光景に、大きな衝撃を受けました。母親が慌てている様子が事の深刻さをさらに実感させていました。まだ小さかった私には、ただ見ていることしかできません。何も出来ないことに呆然としていたことを覚えていません。

洪水から数ヶ月後、私の住んでい

るアパートの一階に洪水で家をなくしたおじいさんとおばあさんの夫婦が避難してきました。最初に会ったときは、恥ずかしくて何も話せませんでした。少しずつ挨拶をするようになり、その後、おじいさんとおばあさんの家に遊びに行くようになりました。二人の話聞いて、心に残っていることが二つあります。

一つ目は、初めて部屋に入ったとき、おじいさんが、

「この洗濯機も冷蔵庫も机も服も全部支援物資なんだよ。」

と教えてくれました。それらを見て支援の速さに驚きました。被災した人たちは落胆し心身ともに疲れてしまっています。それを助ける為に支援はとて

も大切だと気付かされました。二つ目は、おばあさんが言っていた、「ボランティアさんが家の片づけを手伝ってくれたのは本当にありがたかった。」

の言葉です。おばあさんにとって泥だらけで使えないと分かっている自分では捨てられない物がありました。ボランティアさんが、どんどん捨ててくれたおかげですっきりした気持ちになり、頑張ろうと思えるようになったそうです。ボランティアさんの頑張りが、気持ちを前向きにしてくれるのとても素晴らしいことです。頑張っている人の姿を見た人が頑張ろうと思ひ、またそれを見た人が頑張ろうと思ひ、そんな頑張りやの輪がどんどん広がっていったことに感動を覚えずにはいられませんでした。

被災しないこと、これが一番いいことなのは分かります。とはいえ、今は

誰がどこで被災するのかわかって分かりません。もし、被災してしまったときの備えは、とても重要になってくるのです。そして、被災した人々への、支援や手助けが前に向くための重要な要素であると考えます。近年異常気象により、被災してしまうことが多くなっているように感じます。私にも、そのような人たちに元気を出してもらおうために、できることがあると思えました。これからは、何ができるのか、何をすればいいのかを考え行動していきたいです。

山陽小野田市教育委員会教育長賞

「自然災害を通して」

山陽小野田市立小野田中学校

二年 魚谷 藍生 さん

二〇一一年三月十一日、日本で大規模な地震が起こりました。東日本大震災と呼ばれるその地震は、大きな津波が来たことで多くの人の命を奪いました。毎年三月十一日になると、東日本大震災の映像がテレビで流れます。大きな揺れにより家具が倒れるところ、津波により一瞬にして街がのみこまれ、家や車が流されるところなど、映像を見ただけで恐怖を覚えます。

しかし、この大地震で助かった命もたくさんありました。あるテレビ番組で釜石の子供たちの特集を見ました。何度も津波の被害を受けていた釜石には、世界最大級の湾口防波堤があります。そのため、津波が来ても大丈夫だと思っている人が多かったそうです。

しかし、自然災害は毎回違う起こり方をします。子供たちの防災訓練は強化

されていて、避難場所の確認をして、ハザードマップを作成し、小・中学校合同の避難訓練や消防と連携して負傷者の搬送訓練なども行っていました。地震が来たら即避難することはもちろん、「想定を信じない」「状況下で最善を尽くす」という教育が徹底されていたそうです。あの大地震の日、その訓練の成果が出ていました。釜石中学校の生徒たちは揺れがおさまった後、一斉に高台に走り出しました。日頃一緒に避難訓練をしている小学生も中学生のその姿を見て走り出したそうです。

指定されていた避難場所では危険だと思った子供が、さらに高い所にある施設へと避難を促し、近隣の保育園児や高齢者も一緒に無事に避難することができていました。訓練で教わっていた通り、想定にとらわれず、その時の最善を尽くした結果でした。

僕たちも定期的に避難訓練をしています。正直、めんどくさい気持ちが強くて真面目にやっているとさえ言えません。この釜石の子供たちの話を聞いて、これまでのいい加減に避難訓練をやり過ぎてきたことを恥ずかしく思いました。僕の住んでいる町は、これまで特別大きな災害を受けたことがありません。それが意識の低さにつながっているとも言えます。

日本は今、予期せぬ自然災害が多く起こっています。地震だけでなく、豪雨、土砂崩れ、河川氾濫など色々あります。最近では南海トラフ地震なども恐れられています。

東日本大震災の話から、防災には、知ること、備えること、行動することの重要性を知りました。災害が起こっ

たとき、瞬時に判断し行動できるように、これまでの自分の考えを改める必要があると思いました。そのため、もつと防災に対しての意識を高めていこうと思います。

宇部・山陽小野田消防局消防長賞

「自然災害に備えて」

宇部市立常盤中学校

三年 八尾 沙香 さん

「あれが水無川だよ。」

父が車を運転しながら私にそう言いました。

平成二年、雲仙普賢岳が噴火し、四十四人の命と、約千四百戸の住宅が失われました。命を奪ったのは噴火現象の中でも最も恐ろしいと言われる火砕流でした。火砕流は火山灰や軽石などの火山砕屑物と、水蒸気や火山ガスなどのガス成分が一緒に山を流れる現象で、その温度は約数百度以上になります。また、早さは時速100kmを超えることもあるそうです。雲仙の噴火では水無川流域で、この火砕流やその後の雨によって土石流が発生し、多くの被害が発生しました。

私はこれまで雲仙の噴火については知りませんでした。今回、土石流被災家屋保存公園で土砂に埋まった民家を見学し、また、当時の火砕流の動画などを見て、火山噴火の恐ろしさを改めて感じました。

私の住んでいる場所の近くには火山はありませんが、日本は火山国で、私たちの生活に大きな影響を与えています。平成二十六年には長野県の

御嶽山が噴火し、五十人以上の登山客が命を落としました。また、先日も桜島で大規模な噴火が発生し、今も活発な火山活動が続いているようです。

いつ火山が噴火するかを正確に予測することは非常に難しいですが、その前兆は火山性地震として現れることが多くあるそうです。

例えば御嶽山の噴火では、噴火する十七日前の九月十日頃から山頂の地震回数が急に増えたそうです。しかし、その後地震回数が減ったため、多くの方が命を落とす結果になってしまいました。

火山性地震などによる噴火予測は、現在も研究されているようですが、前兆を観測してから実際に噴火するまで、数分〜数年以上と非常にばらつきがあるため、噴火を正確に予測するのがとても難しいのです。そのため、いつ噴火しても対応できるように、普段から防災意識をもっておくことが大切です。

雲仙の噴火では、火砕流や土石流で家を失った人が多く発生し、長い人は約5年間も避難生活が続いたそうです。そのため、現在では土石流への備えとして、川の堤防や砂防えん堤が建設され、生活を守る仕組みが作られています。また、火山噴火だけでなく、最近は大雨や台風による土砂災害が増えていますので、このような堤防建設などの公共事業を進めることの大切さを改めて感じました。

火山は噴火のような悪いことだけではなく、温泉や美しい風景を作り出すなどの良いことも私たちに与えてくれます。私は温泉が好きで家族と一緒に

よく行きますが、もし、噴火などの自然災害に遭遇した場合、適切に避難ができるよう、事前に目的地のハザードマップなどを調べておくことが大切だと感じました。

宇部・山陽小野田防災協会会長賞

「自然災害から身を守るためには」

山陽小野田市立高千帆中学校

二年 中田 遥那 さん

ここ最近、日本では毎年、集中豪雨によって河川の氾濫や土砂災害が多くなっています。今年も各地で、記録的豪雨による災害の様子をテレビで見ると、自分の想像をはるかに超えています。

今年の七月、私の住んでいる山陽小野田市の一部の地域でも、線状降水帯による大雨に見舞われました。道路が冠水したり、床上浸水したり、被害が出たとニュースで見ました。厚狭川と大正川があふれて、山陽小野田市が最も高い大雨警戒レベル5「緊急安全確保」を出したのは、午前一時三十五分でした。けたたましく防災メールの通知が鳴り、私はこんな真夜中に避難しなくてはいけないなんて、正直怖いなと感じました。

自分が実際に豪雨災害を体験しないと、どこか「大丈夫だろう。」という気持ちでいる私があります。それでは、実際自分の身に起きたときに、正しい行動ができないような気がします。自然災害には、「大丈夫」という言葉は通用しないと感じました。

大雨から身を守るためには、まず、危険な場所には近づかないこと、自

分で情報を集めて、想像力を働かせて、自分の身は自分で守ることが大切です。

私の家の近くにも、有帆船があります。近所に住んでいる人の話では、何十年前前には、このあたりまで水がきたことがあると聞きました。もし、河川があふれたときには、どう逃げるかイメージしておくことが大事です。毎年、学校からハザードマップをもらえます。これからは、年一回、家族で共通認識として、避難場所や避難経路の確認をし合う時間を作りたいと思います。

自然災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。時として、自分の想像をはるかに超える力で襲ってきます。集中豪雨が続く、道路の冠水や住宅の浸水が避けられないと判断したときは、無理にその場に留まらず、安全に、そして迅速に避難をすることを一番に考えなくてはいけないと思いました。いのちを守る避難の方法は多様化しており、避難所に行くことだけが正しいわけではありません。「在宅避難」や「縁故避難」など、一人一人自分にとって行動が重要だと考えます。

防災対策で大切なことは、自分の身の安全を守るために一人一人が自ら取り組む「自助」と、近所や周囲の人が協力し助け合う「共助」です。自分自身の身の安全の守り方を知っておくこと、水や食料などの備えをしておくことが必要だと思います。自分と家族の命を守り、そして地域を守るため、「自助」と「共助」相互のバランスが重要であると思いました。

令和5年度 各種試験・講習会等御案内

下記の試験・講習会について、宇部・山陽小野田防災協会（宇部・山陽小野田消防局予防課）、または小野田消防署消防予防係の窓口にて受付いたします。詳細については、協会事務局までお問い合わせください。

危険物取扱者試験（前期）

○試験日 6月17日（土）

◎受験地 宇部市・下関市ほか

○試験日 6月18日（日）

◎受験地 山陽小野田市・山口市ほか

◆受付期間

（書面申請）4月7日（金）～4月20日（木）

（電子申請）4月4日（火）～4月17日（月）

乙種第4類危険物取扱者試験準備講習会（前期）

○講習日 5月11日（木）【予定】※1日間講習のみ

◆受付期間

4月7日（金）～4月20日（木）【予定】

消防設備士試験

○試験日 9月3日（日）

◎受験地 下関市・山口市・周南市

◆受付期間

（書面申請）7月3日（月）～7月14日（金）

（電子申請）6月30日（金）～7月11日（火）

防火管理新規講習

◆甲乙同時防火管理講習

① 5月31日（水）・6月1日（木）宇部市内【予定】

② 9月26日（火）・27日（水）宇部市内【予定】

③ 11月28日（火）・29日（水）宇部市内【予定】

◆甲種防火管理再講習

○ 1月23日（火）宇部市内【予定】

※ただし、予告なく変更になることもありますのでご注意ください。

■自己PR

30年前は、すれ違った時『爽やかな風が吹いた』と言われ、今では『元気が出る』と言われる様、日々の声掛けにジェスチャーを交え工場内で安全パトロールを行っている。何事においても評論家にならず、前例にとらわれず、どうすれば出来るのか、創造力豊かに挑戦を続けることで、周りの雰囲気をも少しでも活性化させたいと思っている。

■事業所PR

当工場は小野田の地に設立133年になります。日本初の国産農薬製造会社という歴史がある一方、『未来のための、はじめてをつくる（人々の希望を現実に変える）』というコーポレートスローガンに当社の想いをこめ、各種農薬の他にも電子材料や医薬品原薬、動物用医薬原薬など多種多様な製造・出荷等の事業活動を行っています。

スポットライト②

日産化学株式会社 小野田工場
環境安全室 山本 雄希 さん



- 座右の銘：やる気があれば出来る
- 趣味：スポーツ雪合戦（審判資格 保有）

◇ 編集後記 ◇

明けましておめでとうございます。事務局長の榎原です。

昨年の10周年記念式典では、多くの御参加をいただき誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染防止対策を図りつつ準備を進めましたので、御不便をおかけした部分もあったかと思いますが、皆様の御協力のおかげで盛会裏に終えることができました。次の20年、30年に向けて、また一つずつ事業を進めてまいりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

◇事務局からのお知らせ◇

宇部・山陽小野田防災協会ではホームページを開設しています。各種行事、講習案内、貸出DVD等について随時掲載し更新しておりますので御覧ください！また、令和5年度の総会後に貸出ビデオ（VHS）を処分いたしますので、譲渡希望の方は協会事務局まで御連絡ください。

◇宇部・山陽小野田防災協会事務局窓口◇

宇部市港町二丁目3番30号 宇部・山陽小野田消防局予防課内

TEL 0836-21-7699 FAX 0836-21-6120

E-mail jimukyoku@ube-sansho-bousai.jp URL <http://ube-sansho-bousai.jp/wp/>

宇部・山陽小野田防災協会

検索